

4 段階評価： 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校経営 ビジョン	「幸ヶ丘ならではの教育実践を通して、確かな学力と生きる力を身に付けた子どもを育成する。」 ① 少人数の利点を生かした教育実践を通して、学力向上を図る。 ② 子どもの将来に必要な資質を見据えた教育実践を通して、生きる力の育成を図る。
--------------	---

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値 目標等	具体的な取組	自己評価		結果の考察及び改善対策
				取組別	総合	
知 育	重点目標： 学力向上の推進 【手段】 1 複式解消によるき め細かな指導の充実 と「わかる・できる 授業」づくりと児童 の特性把握	1 ・NRT・CRT 学力調 査全国・県平均以 上 ・Web 学習単元評価 システム活用 100 % 活用	(1) 複式解消非常勤講師及び教頭による複式解消 ○ 複式解消非常勤講師＝3・5年算数、 4・6年国語を担当 ○ 教頭＝1年算数、2年国語を担当 (2) 学習指導・個別指導の充実 ○ ICT や Web 学習単元評価システム、アセスメントシ ートの活用による学習指導の充実（タブレット PC の積 極的かつ効果的な活用） ○ 一人一人の学力分析による個に応じた指導の充 実 (3) 研修の充実 ○ 主題研究や外部講師による研修の充実による教 師の授業力向上を目指す。	3	3	○複式を解消できるので、授業の内容 をしっかりと押さえる環境や体制 ができている。 ○児童が少ないので、実態に応じた 細やかな指導ができている。（実物 や具体物を揃えて使うことができ る。） ○ ICT 活用に関しては、各学年で実 態に合わせながら進めることが できている。 ● ICT 活用、タブレット PC の活用 能力育成の為に計画的に研修を行 っていく必要がある。
	2 小中一貫教育（3 校合同研究）の推進 と一人1研究授業を 通した授業改善	2 ・一人1研究授業の 実施 ・年4回の3校合同 研究会の実施	(1) 一人1研究授業による授業力向上 ○ 主体的・対話的な校内研究の実施 ○ 全教員参加による研究の深化 (2) 3校合同研究の充実 ○ 定期的な3校合同研究会の実施 ○ 共同研究の成果の自校研究への活用	3		○主題研や3校合同研究を通して、 国語科の読解力、表現力をつける という意識は、高まってきている。 ○一人1研究授業を行い授業改善に 努めており、児童の学力向上にも つながっている。
	3 読書活動の推進	3 ・年間貸し出し冊数 一人100冊以上 ・保護者向け貸出の 啓発	(1) 学校図書館協力員による図書室整備と蔵書の充実 ○ 継続的な図書室整備と計画的な図書購入による 蔵書の充実 (2) 「読み聞かせ」による意識の高揚 ○ 地域や中学生による読み聞かせを通して児童の 読書への関心意欲の向上 (3) 家読の推進 ○ 家庭での読書推進の啓発	3		○西小林中学校の卒業生による読み聞か せ、地域の方の読み聞かせなどに親し む環境ができている。 ○図書室の保護者開放も「あんあん文庫」 の設置や充実も進み促進のための手立 てがうたれている。 ○図書貸し出し100冊以上2名、80冊 以上5名と読書に関する意識が高まっ ている。
	4 家庭学習の充実	4 ・年3回の「家庭学 習ふり返り週間」 の実施 ・担任による見届け と称賛	(1) 「家庭学習ふり返り週間」の実施 ○ 家庭学習の在り方についての家庭での振り返り 状況の把握と対策 (2) 担任による見届けの実施 ○ 学習意欲を喚起するための提示物への確実な見 届けと称賛	3		●家庭学習振り返り週間の結果を通 して、メディアの時間が長かった り、学習の時間が短かったりとい う家庭もあった。懇談会や個人面 談などで家庭学習の大切さを啓発 していくことが大事だと考える。
徳 育	重点目標： 豊かな心の教育の推進 【手段】 1 西小林中校区の小 中一貫 教育のきま り定着及び集団規律 の徹底	1 ・西小林中校区きま り定着100% ・返事・挙手・声の大き さ・立腰・あいさつ・集 団行動のきまり定着1 00% ・立腰及び鉛筆の正し い持ち方の定着100%	(1) 全職員による共通実践と意識の継続化 ○ 本年度の重点指導事項を全職員で共通理解・共 通実践 ○ 集会等を活用しての常時指導（意識付けの言葉 かけ等）による集団行動のきまりや立腰・鉛筆の 正しい持ち方等の指導 ※ 基本的生活習慣の確立 ※ 3密をさける行動	3	3	○日々の指導や全校集会等で学習や 生活のきまりを話すことで、規範 意識の向上につながっている。 ●あいさつがよくなってきているよ うに感じるが、引き続き指導して いきたい。
	2 道徳教育の充実	2 ・授業の流れの継続 ・別葉の活用	(1) 道徳授業の保護者参観の設定 ○ 7月の参観日に全学級で道徳の参観授業を実施 （人権関係） (2) 道徳研修の実施及び別葉の活用 ○ 一昨年度の研究を生かしての主体的・対話的な 授業の実施	3		○6月の参観日で人権に関する授業 を設定したり、PTA さかなのつか み取り活動等を通して命について 考えさせたり豊かな心の醸成に努 めている。
	3 キャリア教育の充 実	3 ・「こすもす科」100% 実施 ・昨年度の実績を踏 まえた地域人材活 用を行う。	(1) 「こすもす科」の計画的な実施 ○ キャリア教育のねらいをふまえ、「こすもす科」 の授業の完全実施 (2) 地域人材の活用 ○ 「KSSVC」を活用しての地域人材による授業や 活動の充実させる。	3		●保護者の方々にも協力を得ながら キャリアパスポートを整理した。 今年度からの取組なので、キャリ アパスポートの活用についても更 に進めていきたい。
	4 朝のボランティア 活動の活性化	4 ・称賛と支援による 活動の充実 ・参加率100%	(1) 環境整備を通した奉仕の精神・愛校心の涵養 ○ 校内清掃の内容の充実と自主的な取組への啓発	3		○朝のボランティアの参加者が増え てきつつある。毎日出てくる児童 がいる。また、低学年も毎日継続 しているので良くなっている。
	5 「幸ヶ丘太鼓」の 取組及び作品応募を 通した自信とやる気 と達成感の涵養	5 ・昨年度の実績と反 省を踏まえた太鼓 発表の機会の設定 ・1児童1作品の入賞 または新聞等掲載	(1) 太鼓指導の充実 ○ 外部指導者（響座）と職員による月1回程度の 指導の実施と内容の充実 (2) 発表の機会の増設 ○ 例年の発表（運動会、音楽大会、学習発表会、 地区行事）+みどりの少年団総合研修会及、県太 鼓フェスティバル等での発表 (3) 積極的な作品応募・作品登校 ○ 各種の作品展やコンクール、宮崎日日新聞「若 い目」や詩歌への作品掲載を通しての自信と誇り の涵養	3		○幸ヶ丘太鼓については、講師の協 力もあり、児童数は減っているが 発表できる形までもっていくこと ができた。 ○運動会、西諸音楽大会、太鼓フェ スティバルなど大きな舞台で太鼓 発表をすることで、声等も大き くなってきた。
	6 教育相談の充実	6 ・月1回の教育相談 ・すこやか委員会の 実施	(1) 教育相談の充実 ○ 月1回教育相談アンケートを通しての児童の人 間関係や家庭状況、心の状態等の把握といじめ等 の早期発見 (2) すこやか委員会の実施 ○ 教育相談の結果を全職員で共有し問題行動等へ の対応の在り方等について協議、共通実践	4		○教育相談や教師同士で情報交換を を行い、児童への声かけに生かす ことができた。（目配り、心配りを心 がけるようにする。） ○すこやか委員会で児童の様子を共 通理解することができ、児童の様 子の変化を見守る体制ができ ている。

体 育	重点目標： 健やかな身体の育成 【手段】 1 一人一人に応じた 体力向上の推進	1 ・新体力テスト5% アップ	(1) 体力の把握と体力向上プランの策定 ○ 児童一人一人の体力の把握と、体力向上プランを策定 ○ 体力向上のための遊びの奨励と体育学習の充実 ○ 学校保健委員会において児童の体力の状況周知と体力向上のための取組を共有	3	●体力向上に関する取組がまだ少ないので、今後、課題解決の取組を考えて実施していきたい。 ●外遊びもしているが、活発に運動させるための手立てを考えていかないといけない。 ●早寝、ノーメディアについては、今後も保護者と協力して改善していく必要がある。 ○肥満傾向児童への保健指導、各種治療の啓発など養護教諭と学級担任とで連携して進めることができた。 ○児童会活動でみんなで遊ぶ日が1つの契機となり、外遊びも増えている様子。肥満対象児童への「体重減」という結果にもつながっていると思われる。 ●生活リズム週間の記録では、欠食率30%と望ましくない結果も出た。家族単位での生活変容が求められるため、難しい面もある。 ○欠席が非常に少なく、全体としてほぼ無欠席でありよいと思う。教育活動が計画的に進んでいる。 ○現在むし歯の治療率は、66.6%である。今後も引き続き家庭へ啓発していく。
	2 外遊びの推奨	2 ・幸っ子パラダイスの実施	(1) 週1回の「幸っ子パラダイス」の実施 ○ みんなで外で遊ぶ機会の設定(毎週木曜日)	3	
	3 「早寝・早起き・朝ごはん」・ノーメディアデーの奨励と基本的な生活習慣の定着	3 ・朝ごはんを食べてくる児童100% ・「ノーメディアデー」の定着100%	(1) 保健指導の充実 ○ 朝食の内容充実のための保護者向け啓発活動(家庭での食生活について親子で振り返る週間の設定) (2) 学校保健委員会での講話の実施 ○ 保護者への啓発による、ノーメディアデーの定着		
	4 肥満率の解消	4 ・対象児童への保健指導の充実	(1) 保健指導の充実 ○ 家庭への協力要請と運動と生活面における保健指導の充実 ※ 外部講師による保健指導の充実	3	
	5 全員登校年間150日以上	5 ・全員登校の日150日以上 (1/20 150日達成)	(1) 児童の健康に対する意識付け ○ 児童の健康への意識向上と欠席日数の減少 ・元気で登校できることのすばらしさの話 ・日常の健康観察、保護者との連携の充実 ・マスク着用、手洗い、うがい、手指消毒等	4	
	6 むし歯治療率の向上	6 ・むし歯治療率100%	(1) 定期的な治療勧告の実施 ○ 健康診断後及び長期休業の治療勧告の実施 ○ フッ化物洗口による意識高揚とむし歯の予防	3	
食 育	重点目標： 望ましい食習慣の育成 【手段】 1 給食指導の充実	1 ・残菜0 ・正しい箸の持ち方100%	(1) 食事場所での偏食指導及びマナー指導 ○ 食事の場を利用した指導の充実 ・自分に合った食量 ・偏食 ・食事のマナーなど	3	○食事のマナーについては、大変よくできている。給食の指導も工夫しながら指導が進められている。 ○養護教諭を中心に個に応じた給食指導を行うことができていた。 ○1人1人の適量を考えた配膳を行った結果、時間内に食べきることができるようになってきた。 ○残食0の日も増えてきている。 ●サツマイモ栽培や梅ちぎり活動など子ども達の表情もよく体験活動が充実している。次年度は、常時活動でサツマイモまわりの草取り等関わらせていきたい。 ○弁当の日に関しては、3校合同実施ということもあり、食育だよりも併わせて発信してあり、地域を上げた取組になっている。 ○学校保健委員会は、当事者の話を通してLGBTQについて理解を促した。多様性についてを考える機会となった。 ●生活リズム週間を通して、保護者と話す機会も増えてきた。効果的な時間の使い方を促していきたい。
	2 体験活動と関連させた指導の充実	2 ※数値目標なし	(1) 栽培活動との関連を図った指導の充実 ○ 食への関心の向上 ・梅ちぎり活動 ・サツマイモの苗植え ・収穫などの体験活動 (2) 外部機関による食体験の充実 ○ モーモー教室等の実施を通して食の体験の充実	3	
	3 弁当の日の実施	3 ・弁当の日2回実施	(1) 弁当の日の実施 ○ 学年に応じて、遠足の日の弁当づくりや長期休業中に家庭での調理体験を通しての、食への関心の向上と感謝の心の涵養	3	
	4 家庭との連携	4 ・朝ごはん摂取率100% ・肥満予防への取組	(1) 家庭での望ましい食生活の啓発 ○ 定期的な、または適宜に発行する「保健だより」を通しての保護者への啓発	3	
そ の 他	重点目標： 保護者や地域から信頼される安全・安心な学校づくり 【手段】 1 小小・小中連携及び幼保小連携の推進	1 ・小小・小中の交流学習年4回以上実施 ・幼保小連絡協議会年2回実施	(1) 交流学习、幼保小連絡協議会の実施 ○ 情報の共有や職員間の親睦を図り、小1プロブレムや中1ギャップに対応体勢の計画的な交流活動を実施 ○ 保育園や幼稚園との共通実践、連携をはかり、一貫した教育への取組(新入児の所属園とも連携)	3	○かおる幼稚園での園児との交流や職場体験も生活科やこすもす科での体験を伴う学習として意義あるものとなっている。 ●計画した3回を実施することができた。2回目は、時期が遅れたので、早めに計画の連絡をする必要がある。 ○関係機関に協力してもらい自然災害への準備や等の大切さが実感できる取組ができています。 ●噴火災害対応では、二次避難場所の南地区体育館で保護者への引き渡し訓練が実施できた。よりスムーズにできるように保護者と共通理解を図っていきたい。 ○コンプライアンス研修では、動画等も活用し、実例をあげながら分かりやすい研修が行われている。
	2 学校運営協議会の推進	2 ・学校運営協議会の年3回実施(中学校区年2回実施)	(1) 学校運営協議会の実施と内容の充実 ○ 開かれた学校づくりに努めるため、学校行事と関連させて学校運営協議会の実施	3	
	3 防災教育の推進	3 ・学校における避難訓練年4回実施	(1) 避難訓練の実施 ○ 地震・火災・風水害・不審者対応の4つについての避難訓練を実施する ※ 噴火災害対応の避難訓練の計画・実施 (2) 「自分の命は自分で守る」ことを主眼に、家庭や地域においても率先避難者となれるような教育の推進	3	
	4 信頼される教職員の育成	4 ・コンプライアンス研修月1回実施 ・不祥事等0	(1) コンプライアンス意識の向上 ○ 毎月1回、コンプライアンス研修(交通安全や体罰、情報漏洩など様々なテーマ)の実施 ○ 学校内から不祥事を出さないという意識の向上	3	

次年度の方向性についての校長所見	○ 今年度もコロナ禍での教育活動であったが、昨年度の反省等を活かし、with コロナでの教育活動を進めてきた。どの項目の評価も良好であった。今年度の教育活動の反省点を次年度に生かし、以下の取組に努めていきたい。 ・【知育】：タブレット PC を積極的に活用した授業からタブレット PC を授業で効果的に活用したり、児童のスキルアップを目指したりする。 ・【徳育】：基本的な生活習慣(特にあいさつ、反応する)を確立させるとともに、児童のキャリア教育の具体的な実践に努める。 ・【体育】：児童の更なる体力向上、健康増進への具体的な取組を行う。 ・【食育】：家庭と連携し、食への関心や感謝の気持ちを高めるとともに、生活リズム習慣等への具体的な指導を行う。 ・【その他】：地域と連携した防災訓練を計画・周知し、地域と合同で実施する
------------------	--